

平成29年度 目黒の桜保全事業 目黒川の桜再生実行計画 第2回検討会(現地見学会)を行いました



目黒区内の公園・緑道・道路緑地等には約2,300本の桜があります。目黒の桜保全事業は、区が管理する桜について樹木医による樹木診断を行い、倒木の危険のある桜を抽出し、桜の伐採と桜再生実行計画の策定、桜の植替え・保護を行うものです。事業は平成27年度から実施しており、今年度は目黒川の桜並木について再生実行計画を策定します。

10月1日(日)、第2回検討会を現地見学会として開催し、12名の方にご参加いただきました。中目黒公園から菅刈公園まで約1.6kmの目黒川の桜並木を歩きました。説明ポイントでは桜の周辺環境、問題点、今後の管理方法などについて樹木医が説明を行いました。

目黒川の桜再生実行計画 将来像：ソメイヨシノの桜並木景観を維持

樹木診断の結果、桜の約9割はほぼ健全な状態にあり、ただちに植替えを行う必要はありません。現状の桜並木を少しでも長く維持していくための保全策を検討し、実施していきたいと考えます。

〈見学会・樹木観察のワンポイント〉 樹木に元気がない様子、注意すべき様子

- 枝…… 枝先が枯れている、伸長量が少ない、ゴツゴツしている。葉が小さい、少ない。
- 幹…… 樹皮につやがない。
- 根元… ひこばえが発生している。
- 虫害… 幹に木くずが付いている。(コスカシバの穿孔害)



第2回検討会(現地見学会)の説明ポイント

1 桜並木を維持するために、問題点の確認

根元が裸地化



土壌が硬くなり根が深く張れず、土壌の表層に根が走り、樹勢が衰退する。

↓
根元植栽を行う。土壌改良を行う。

樹木の間隔が狭い



隣木と競合し、日当たりが悪くなり、樹木の成長が阻害される。

↓
植栽間隔を広くする。

キノコが発生



樹木が腐朽・衰弱し、いずれ倒木の危険が生じる可能性がある。

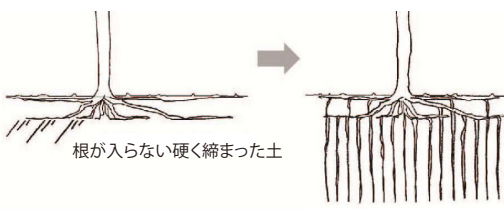
↓
経過観察を十分行い危険な兆候があれば対処する。

2 樹勢を良くする方法の実演

空気穴をあける土壌改良方法(ファインノズル工法)



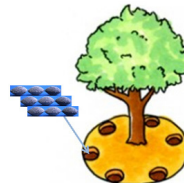
圧縮した空気をノズルで送り込み、土に細長い縦穴をたくさんあけます。



細長い縦穴(深さ1m程度)には、根が伸びていき、雨水も流れ込み、樹木の成長が良くなります。

肥料を与える(施肥) 固形肥料のつぼ肥え

桜の木(特にソメイヨシノ)には肥料が良く効きます。



木の根元から少し離れた場所に穴を掘り(10~15cm)、その穴の中に固形肥料を入れて埋めます。

3 桜の根元 試験的植栽の施工

…天神橋上流右岸
(青葉台一丁目26番先)



桜の下は日照条件が悪く植物が枯れてしまい、裸地が多く見られるため、日陰に強い植物を植栽し、植込み地のみどりを保つとともに人が入りにくくし、桜の根を守ります。

アガパンサス・リュウノヒゲ・ユキノシタ・アセビ・ヒイラギナンテン・オタフクナンテン

第2回検討会(現地見学会)：主なご意見

- ・オオムラサキツツジなど桜の根元の植栽は、住民でも刈り込みなどの管理ができるのではないか。
- ・目黒川の桜並木再生を計画的に進めるようにしてほしい。